

ヒロセ通商株式会社

登録番号：第一種金融商品取引業 近畿財務局長（金商）第 41 号

加入協会：日本証券業協会

一般社団法人金融先物取引業協会（会員番号 1562）

シグナル注文機能利用説明書

第 1 条（目 的）

本説明書は、LION チャート Plus+に実装されているシグナル機能を利用した注文機能の利用方法、注意事項等を定めた書面で、お客様は本説明書の内容とシグナルの特性について理解し同意したうえで取引するものとします。

第 2 条（シグナル注文機能の概要）

シグナル注文機能（以下、「本機能」といいます。）とは、当社が提供する LION チャート Plus+に実装されているシグナル機能を利用し、シグナルが発生した際に注文を自動で発注する機能をいいます。

なお、本機能の利用を開始した後は、お客様が機能の利用を停止にするまで、または第 8 条に記載する本機能が停止される条件に該当するまでの間注文を繰り返し発注します。

第 3 条（本機能の利用開始方法）

LION チャート Plus+より「シグナル注文票」に対象通貨ペア、監視する足種、Lot 数、決済 OCO の設定値など必要な情報を入力します。

設定が終わりましたら、「シグナル発注開始」のボタンを押下すると本機能が有効となりお客様が設定されたシグナルの監視が開始され、設定された条件に達するとシグナルが発出されシステムにより注文が自動で発注されます。

第 4 条（本機能による注文の方法）

本機能の注文は、IF-OCO 注文で発注されるものとし、IF にあたる新規注文は「成行注文」を「両建あり」で発注します。決済は新規注文時に設定した IF-OCO の決済 OCO 注文を指定することで実行されます。そのため、決済注文はシグナルの発生により発注されるのではなくあらかじめ注文票で設定された OCO 注文によって実行されます。注文の詳細については、別途「LION FX 取引説明書」を参照ください。

なお、別の取引ツールからの意図しない決済を防ぐために、本機能を用いて建てられたボ

ポジションには「ポジションロック」を実施するものとします。ただし、注文が約定した後システムで速やかにポジションロックを実施しますが、本機能からの注文約定とほぼ同タイミングで成立したポジションと反対方向の両建なしの注文が約定した場合、ロック機能の有効化が間に合わずポジションが決済されてしまうことがありますのでご注意ください。

第5条（本機能の適用範囲）

1. 本機能で利用可能な通貨ペアは別紙の通りとします。
2. 本機能でシグナル判定に利用可能なチャートの足種は別紙の通りとします。

第6条（本機能の発注条件）

1. 本機能によるシグナル発出時の発注は、ローソク足の確定に対し1回のみ行われ、同じローソク足内で2回発注されることはありません。
2. シグナルの判定は、チャートの足が確定されたとき、1本前の足と確定した足のテクニカル値又は終値を比較して行います。また、シグナルの判定は常に足が確定した1回のみ行うものとします。
3. 次に記載する場合には、シグナル注文が発注または約定されません。
 - ①最新レートの取得が不可能な場合
 - ②証拠金不足の場合
 - ③「シグナル発生足」・「シグナル確定足」・「シグナル確定足1本前の足」のいずれかの足が時系列的に不連続であった場合
 - ④成行注文が約定しなかった場合
 - ⑤シグナル注文によって保有したポジションの決済が完了していない場合（本機能による保有できるポジションは1ポジションのみとします）
4. シグナルが発生する具体的な例は、別紙2に記載します。

第7条（手動による決済及び注文の変更）

本機能により建てられた新規ポジションには決済OCO注文とポジションロックが設定されていますが、お客様ご自身の操作でOCO注文の変更を行なうことや、ポジションロックを解除する等により手動で決済することが可能です。ただし、手動でポジションの決済等をされた際等で本機能が停止されることがあり、その条件は第8条に記載の通りとなります。

第8条（本注文機能の停止および強制的に停止される条件）

本注文機能は、サーバー上ではなくお客様の端末上でシグナル判定及び発注処理を行っているため、お客様の端末が正常に稼働していないと本機能も正常に動作しません。そのため、お客様がブラウザを閉じた場合や端末がスリープ状態になる、インターネットの回線が

不安定になる等により、端末上で本機能の動作が不安定になった場合及びサーバーとの接続が切断された場合は停止されます。

本機能が停止される条件は以下になります。

- ① シグナル発注モードの解除ボタンを押下した場合（通常の手動による停止）
- ② シグナル監視中、通信環境不安定などの事由により再接続状態となった場合
- ③ シグナル注文専用画面のポジション一覧・ポジション集計・ポジション統合から全決済を行った場合
- ④ シグナル注文専用画面が表示されているブラウザの最小化、タブスリープ状態またはPC本体のスリープ状態などの理由によって再接続状態となったとき(20秒以上通信遮断となった場合など)
- ⑤ シグナル注文専用画面が表示されているブラウザを終了させた場合
- ⑥ シグナル注文専用画面が表示されているブラウザの再読み込みを行った場合
- ⑦ ログアウトした場合
- ⑧ お客様の端末(PC)本体がシャットダウンされた場合
- ⑨ 営業日をまたいで再接続状態となった場合

第9条（制約事項および注意事項）

1. 本機能は1画面だけ起動して利用されることを想定しておりますので、複数同時に起動してのご利用は動作保証外といたします。

2. 本機能の利用情報はブラウザのキャッシュに保存されるため、本機能利用中および本機能を利用したポジションを保有されている間にブラウザのキャッシュクリアを行われた場合正常に動作しなくなる可能性があるため行わないでください。

3. 経済指標発表時等のスプレッドが広がっているときにシグナルが発生し、新規注文が約定した場合は、スプレッド差により即座に決済OCO注文が約定してしまうリスクがあるため逆指値注文のレート差の設定値は注意して入力してください。

4. LION チャート Plus+には、本機能のバックテスト機能を用意しております。バックテストで内容を十分確認したうえで実際の取引を実施してください。なお、バックテストの成績は将来の利益を保証するものではなく、また実際の取引では流動性等の問題によりシグナル発生時と約定レートに差が発生することがありますのでご注意ください。

5. 本機能はレートを受信してチャートの描画及びシグナルの判断を行っています。そのため、通信が不安定な状態等の何らかの理由によりレートの受信が遅れた場合は、シグナルの発生及び注文の発注が実際の時間よりも遅れて実行されることがありますのでご注意ください。

6. シグナルの判定は売り買いに関わらず全て Bid (売り) レートを基準に行います。

注文は成行で実行されるため、判定レートと約定レートに差が出る可能性があります。特に買い注文の場合は Bid レートで判定して Ask (買い) レートに対して注文が発注されるの

で判定レートと発注レートに差が出ることにご注意ください。

第 10 条（サービス内容の変更）

当社は、お客様に事前に通知することなく本機能に関するサービスの内容を変更することができるものとします。

第 11 条（シグナル注文機能利用説明書）

本取引説明書は、予告なく変更する場合があります。

用語定義

・シグナル

チャートやチャート上の移動平均などのテクニカル分析指標に設定された条件に合致した場合に、売りまたは買いのサインが表示されることをいいます。この表示されたシグナルに従って売買することをシグナル売買といいます。

・LION チャート Plus+

当社が提供するお客様向け取引チャネルの 1 つになります。シグナル機能を利用した自動売買は本チャネルからのみご利用いただけます。

・キャッシュクリア

ブラウザのキャッシュとは、訪れたウェブサイトの情報を一時的に自身で利用している端末 PC に保存する機能のことをいいます。キャッシュを利用することにより次回以降同じサイトに訪れた際に、再度サーバーへデータの取得を要求することなく、端末 PC に保存された情報を参照することにより不要な通信を減らしてより早くウェブサイトを表示させることができるようになります。このようなブラウザのキャッシュ情報を削除することを、キャッシュクリアといいます。なお、ブラウザのキャッシュクリアをする方法はブラウザ毎に異なります。

LION チャート Plus+では、お客様の設定情報などをこのブラウザのキャッシュ上に保持しているため、キャッシュクリアをされると本機能を利用する上での必要な情報が削除されることで初期状態になってしまうため、想定した挙動が出来なくなりますので十分にご注意ください。

・バックテスト

作成したシグナルによる取引のパフォーマンスを検証するために、過去のチャートデータやレートデータを利用して、もしこのシグナルにより売買をしていたらどの程度の損益が発生していたかのシミュレーションをすることをいいます。

シグナル取引を開始される前には、バックテストによる十分な検証を行った上で開始してください。なお実際の取引では、相場の急変や流動性の減少等の様々な理由で、必ずしもシミュレーション通りの結果にならないことをご理解ください。

(別紙)

・取引可能通貨ペア

USD/JPY、EUR/JPY、AUD/JPY、GBP/JPY、NZD/JPY、CAD/JPY、EUR/USD、GBP/USD、
AUD/USD、GBP/AUD、EUR/AUD、AUD/NZD

・利用可能な足種

1分足、5分足、10分足、15分足

(別紙2)

1.1 シグナル発生ロジック

各テクニカルシグナルの判定条件は以下となります。

判定条件	シグナル確定足の1本前	シグナル確定足
対象 A が 対象 B を上抜け (移動平均：ゴールデンクロス)	対象 A ≤ 対象 B	対象 B < 対象 A
対象 A が 対象 B を下抜け (移動平均：デッドクロス)	対象 A ≥ 対象 B	対象 B > 対象 A

判定条件 (一目均衡表)	遅行線先端の1本前	遅行線先端
遅行線がローソクの実体を上抜け	(始値と終値の最大値) 最大値 > 遅行線	(始値と終値の最大値) (1本前)最大値 < 遅行線 最大値 < 遅行線
	補足：遅行線は確定足1本前の足の始値と終値の最大値を下回り、確定足1本前の足の始値と終値の最大値と確定足の始値と終値の最大値を上回る	
遅行線がローソクの実体を下抜け	(始値と終値の最小値) 最小値 < 遅行線	(始値と終値の最小値) (1本前)最小値 > 遅行線 最小値 > 遅行線
	補足：遅行線は確定足1本前の足の始値と終値の最小値を上回り、確定足1本前の足の始値と終値の最小値と確定足の始値と終値の最小値を下回る	

判定条件 (一目均衡表)	シグナル確定足の1本前	シグナル確定足
終値が雲を上抜け	(先行スパン1と先行スパン2の最大値) 雲の最大値 ≥ 終値	(先行スパン1と先行スパン2の最大値) 雲の最大値 < 終値
終値が雲を下抜け	(先行スパン1と先行スパン2の最小値) 雲の最小値 ≤ 終値	(先行スパン1と先行スパン2の最小値) 雲の最小値 > 終値

判定条件 (平均足)	シグナル確定足の1本前	シグナル確定足
陽転	陰線または十字線	陽線
陰転	陽線または十字線	陰線

1.2 and テクニカルシグナル発生ロジック

and 機能を ON にした場合、シグナル発注ロジックの設定条件を満たし、かつ and テクニカルの設定条件を満たしていれば発注されます。(エントリー/and どちらか一方の条件のみで発注されることはありません。)

各テクニカルのシグナル判定条件は以下となります。

判定条件	シグナル確定足
対象 A が 対象 B を上回る状態	対象 B < 対象 A
対象 A が 対象 B を下回る状態	対象 B > 対象 A

判定条件 (一目均衡表)	遅行線先端
遅行線がローソクの実体を上回る状態	(始値と終値の最大値) 最大値 < 遅行線
遅行線がローソクの実体を下回る状態	(始値と終値の最小値) 最小値 > 遅行線

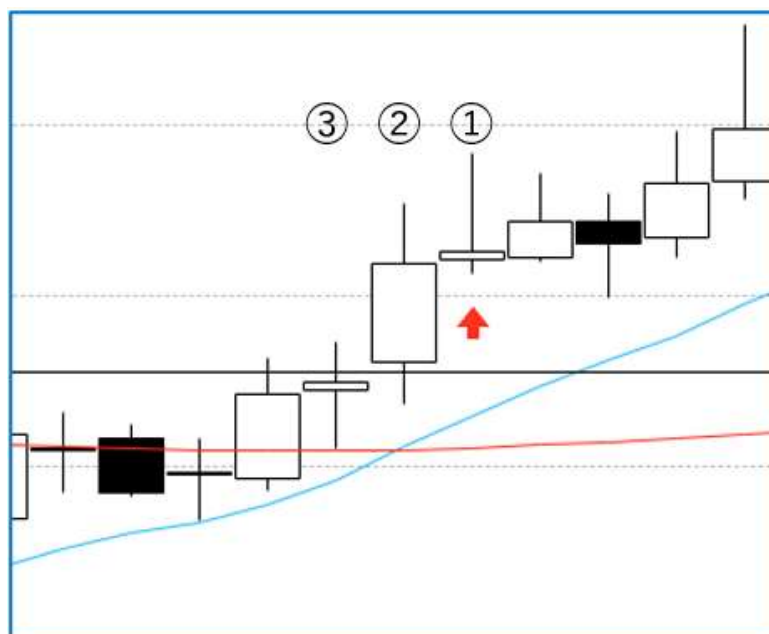
判定条件 (一目均衡表)	シグナル確定足
終値が雲を上回る状態	(先行スパン 1 と先行スパン 2 の最大値) 雲の最大値 < 終値
終値が雲を下回る状態	(先行スパン 1 と先行スパン 2 の最小値) 雲の最小値 > 終値

判定条件 (平均足)	シグナル確定足
陽線の状態	陽線
陰線の状態	陰線

※シグナル発注ロジックもしくは and テクニカルのどちらかに平均足を設定している場合、チャート画面では平均足チャートが表示されます。

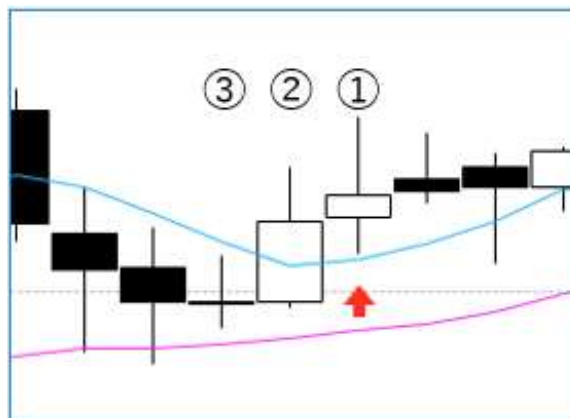
チャート画面は平均足の表示ですが、もう一方のテクニカルの計算は四本値を用いて計算します。

1.3 ゴールデクロススの例



上記の例では、③足と②足の間で移動平均 短期線(青)が 長期線(赤)をゴールデ
ンクロスしている。②足が確定したとき、①足の始値でシグナルが発生する。
※画像は説明の為に加工している。

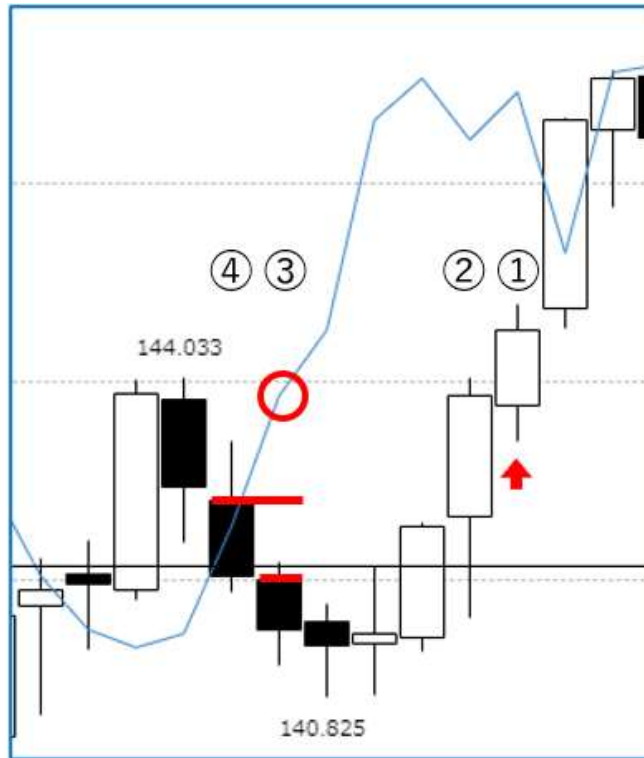
1.4 終値が指定移動平均を上抜きの例



上記の例では、③足の終値が移動平均線(青)を下回っており、②足の終値が移動平均線(青)を上回っている。②足が確定したとき、①足の始値でシグナルが発生する。

※画像は説明の為に加工している。

1.5 遅行線がローソクの実体を上抜きの例



上記の例では一目均衡表のパラメータを転換線期間: 9 基準線期間: 5 スパン期間: 52 と設定している。

②の足が確定した時、遅行線は③の位置となる。

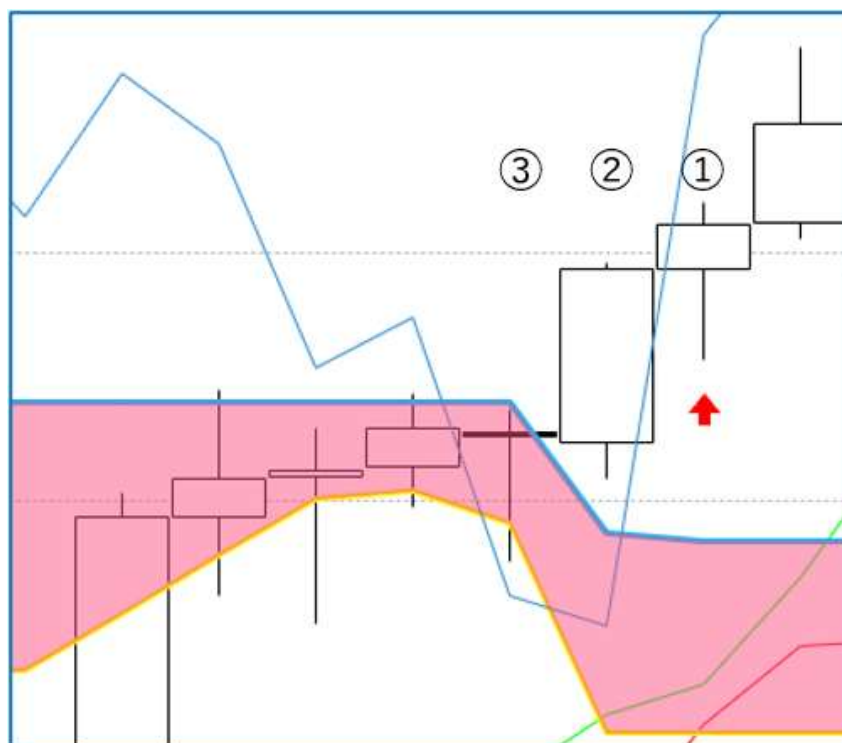
その為、判定対象は③と④となる。

遅行線が④のとき、遅行線は④の赤線を下回っている。

遅行線が③のとき、遅行線は③の赤線と④の赤線2つを上回っている為、②の足が確定したとき、①足の始値でシグナルが発生する。

※画像は説明の為に加工している。

1.6 終値の雲上抜けの例



上記の例では③足の終値が先行スパン 2 を下回っており、②足の終値が先行スパン 2 を上回っている。

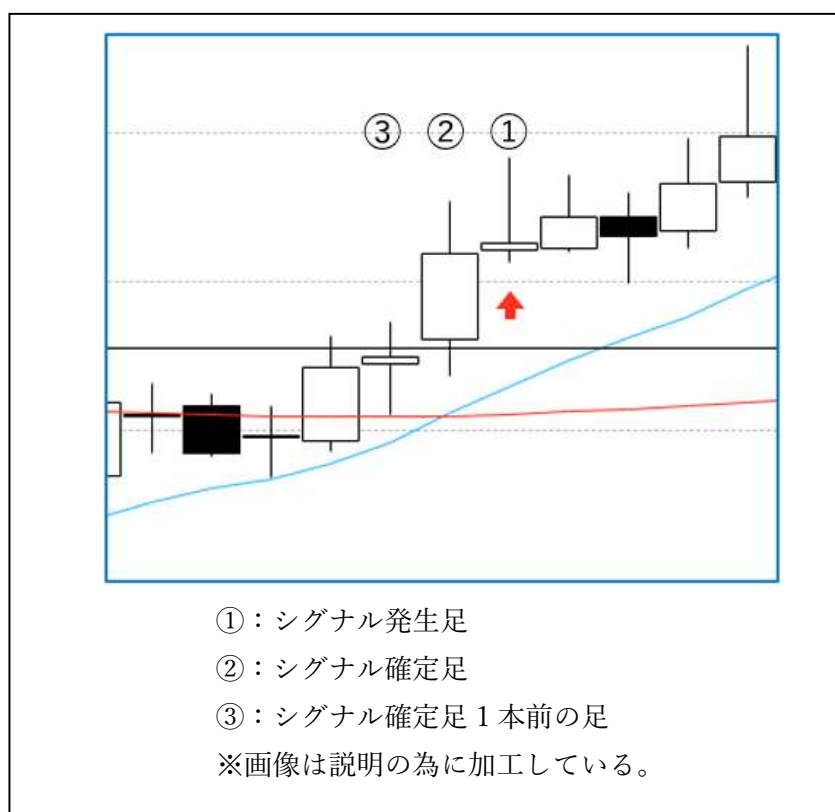
②足が確定したとき、①足の始値でシグナルが発生する。

※画像は説明の為に加工している。

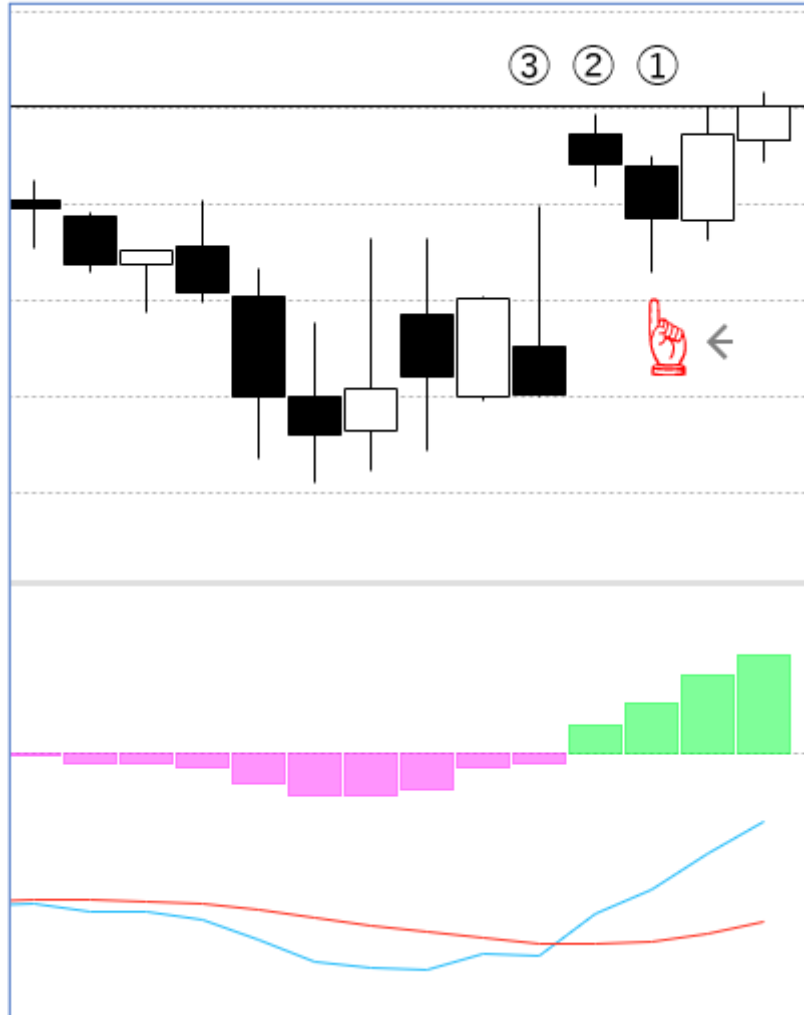
1.7 判定がキャンセルされるケース

「シグナル発生足」・「シグナル確定足」・「シグナル確定足 1 本前の足」 3本の足が時系列的に連続していなければシグナルが発生しない。

これは不安定なレート変化によって不利益となりえる注文の約定を防ぐ為である。



1.8 判定キャンセルの例



上記のチャートは NZD/JPY 1分足チャートであり、テクニカルを MACD、判定条件をゴールデンクロスと設定している。

①～③足の時間は以下の通りである。

① 2022/12/1 17:02

② 2022/12/1 16:59

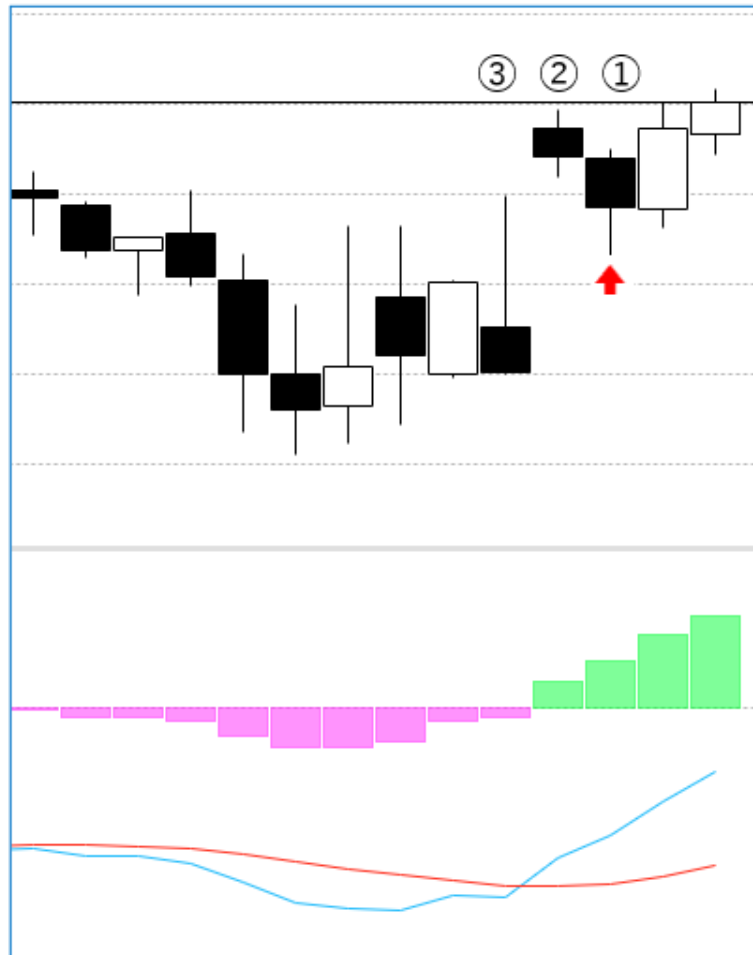
③ 2022/12/1 16:58

チャートでは③足と②足の間で MACD(青) が シグナル(赤) をゴールデンクロスしている。

②足が確定したとき、①足の始値でシグナルが発生するはずであるが、足が時系列的に連続していないため、シグナルは発生しない。

※画像は説明の為に加工している。

1.9 判定成立の例



上記のチャートは NZD/JPY 1分足チャートであり、テクニカルを MACD、判定条件をゴールデンクロスと設定している。

①～③足の時間は以下の通りである。

① 2022/12/1 17:00

② 2022/12/1 16:59

③ 2022/12/1 16:58

①足が 17 時 00 分 00 秒から 17 時 00 分 59 秒までにレートを一度でも受信した場合、①足の始値が確定し、足が時系列的に連続しているため、シグナルは発生する。

※ 仮に①足が 17 時 00 分 00 秒から 17 時 00 分 45 秒までレートを受信せず、17 時 00 分 46 秒に初めてレートを受信した場合でも、①足の始値が確定されるため、シグナルは発生することとなる。

※画像は説明の為に加工している。

2024 年 10 月 28 日現在